

- 問1 日本列島の南西端に位置するある県の就業者割合について、第一次産業が4.9%、第二次産業が15.1%、第三次産業が80.0%となっているデータがあります。この県の産業構造の特徴として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
1. 広大な土地を活用した米作りや畜産業が盛んであり、第一次産業の就業者が全国平均より大幅に多い。
 2. 大規模な工業地域が形成されており、自動車産業などの製造業を中心とした第二次産業の割合が高い。
 3. 豊かな自然環境や歴史的背景を活かした観光業が盛んであり、第三次産業の割合が極めて高い。
 4. 商業や金融業の中心的機能が集積しているため、卸売業や小売業の就業者が第二次産業の就業者をわずかに上回っている。
- 問2 九州地方に位置する宮崎県の面積や人口の特徴について、近畿地方の大阪府や兵庫県と比較して説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
1. 大阪府や兵庫県よりも面積は広いが、人口密度はこれらの府県よりも低い。
 2. 面積は大阪府よりも狭く、人口も香川県に次いで全国で最も少ない部類に入る。
 3. 大阪府よりも面積は狭いが、兵庫県よりも人口密度は高い。
 4. 面積は兵庫県よりも広いが、総人口も大阪府より多いため人口密度は非常に高い。
- 問3 熊本県の自然環境について述べた文として、地形と河川の特徴が正しく組み合わせられているものはどれですか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. 北部の筑紫平野を流れる筑後川の周辺に、大規模なクレークが発達している。
 2. シラス台地を流れる川内川の流域において、広大な畑作地帯が形成されている。
 3. 南部の盆地を通り西へ流れる球磨川の下流域に、平野が形成されている。
 4. 東部の険しい山地を流れる大淀川の下流に、広大な宮崎平野が広がっている。
- 問4 九州地方の自然環境とそれを利用した産業について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。
 2. かつて石炭産業で栄えた筑豊地域では、エネルギー革命による需要の変化に伴い、火山の地熱を熱源とした繊維工業や食料品工業への転換が進んだ。
 3. 九州南部に広がるシラス台地は、火山灰が降り積もってきた水持ちの良い地質であるため、古くから大規模な稲作地帯となっている。
 4. 明治時代に官営の八幡製鉄所が福岡市に建設されたことで、周辺の火山から産出される鉄鉱石を利用した重化学工業が発展した。
- 問5 日本の諸地域に見られる伝統的な住居の工夫について述べた次の文のうち、南西諸島の特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。
 2. 屋根の傾斜を急にし、厚い茅（かや）で葺くことで、雪が滑り落ちやすくしている。
 3. 地面から床を高くした高床式の構造にすることで、地面からの湿気を通さないようにしている。
 4. 住居の北側や西側に「防風林（屋敷林）」を植えることで、冬の厳しい寒風を防いでいる。
- 問6 宮崎県と鹿児島県にまたがる地域において、大規模な台地が形成された主な要因として正しいものはどれか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 冬の季節風によって運ばれた黄砂が、長期間にわたって堆積したため。
 2. 過去の火山活動にともなう噴出物が、地表を厚く覆ったため。
 3. 河川が運んできた土砂が河口付近に堆積し、地殻変動で隆起したため。
 4. 海岸沿いの平地が波の浸食を受け、平坦な地形が取り残されたため。
- 問7 福岡県の工業構成の変化とその背景について説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
1. 海外からの輸入に頼る石油化学工業が急速に発展したため、金属工業や機械工業の出荷額は全国平均を下回るようになった。
 2. 内陸部でのIC（集積回路）生産が中心となり、臨海部に位置する北九州工業地域の金属工業の割合は極めて低くなっている。
 3. 古くから盛んな鉄鋼などの金属工業を土台として、その材料を利用する自動車などの輸送用機械の生産が近年拡大した。
 4. かつて盛んだった金属工業は完全に衰退し、現在は食料品工業と化学工業が県内の出荷額の大部分を占めている。
- 問8 鹿児島県では、海外から輸入される安価な豚肉に対抗するため、どのような農業戦略を強化してきましたか。その背景と内容の組み合わせとして、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
1. 経営規模を拡大するとともに、「かごしま黒豚」などのブランド化を行い、品質の高さで差別化を図る戦略。
 2. 豚肉の生産を縮小し、より単価の高い肉用牛の飼育へ全面的に転換することで収益を確保する戦略。
 3. 飼育戸数を大幅に増やすことで国内市場を独占し、輸入豚肉と同等の低価格を実現する戦略。
 4. 飼育にかかるコストを削減するため、品種改良を中止し、安価な外国産品種の導入を進める戦略。
- 問9 ある地域の気候統計において、6月から9月にかけての降水量が非常に多く、いずれの月も150ミリメートルを大きく超えるとともに、台風が接近する晩夏から初秋に顕著な雨量の増加が見られる場合、その地域の説明として正しいものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 中央高地に位置しており、標高が高いため年間を通じて降水量は少なく一定である。
 2. 北海道地方に位置しており、梅雨の影響を全く受けないため夏から秋の降水量は極めて少ない。
 3. 北陸地方に位置しており、冬の季節風の影響で12月から1月にかけて降水量のピークがある。
 4. 九州地方に位置しており、夏から秋にかけての降水量が気候上の大きな特徴となっている。
- 問10 宮崎平野で「促成栽培」が発達した背景として、気候条件と流通面の説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 福島県公立入試 類似)
1. 冬でも温暖な気候を活かして、他の産地の出荷が少ない時期に高い価格で販売するため
 2. 夏の冷涼な気候を活かして、作物の収穫時期をあえて遅らせることで利益を上げるため
 3. 大都市に近い立地を活かして、輸送コストを抑えながら鮮度の高い野菜を届けるため
 4. 降水量が少ない地域特性を活かして、乾燥に強い作物を大規模に育てるため
- 問11 温泉の源泉数が全国で最も多いことで知られる大分県の地域的特徴について、地形や産業の観点から述べた説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 広大な干拓地を有しており、機械化された大規模な農業によって小麦の生産が行われている。
 2. 亜熱帯の気候を生かして、サトウキビやパイナップルなどの栽培が盛んに行われている。
 3. 火山活動が活発な地域に位置しており、別府や由布院などの温泉地が観光の拠点となっている。
 4. 筑後川の下流に広がる平野部を利用して、米と小麦の二毛作が盛んに行われている。
- 問12 福岡空港において、訪日外国人の地域別割合で韓国からの利用者が約半数に達するなど、アジア諸国からの利用が特に多い理由として最も適切なものはどれか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 空港周辺に広大な農地が広がり、アジア向け農産物の輸出が中心となっているため
 2. 東アジアの主要都市との地理的な距離が近く、短時間での移動が可能であるため
 3. 首都圏に近接しており、日本国内の全ての空港の中で最も滑走路数が多いため
 4. 欧米諸国との貿易の拠点として、19世紀から大規模な国際空港として整備されたため